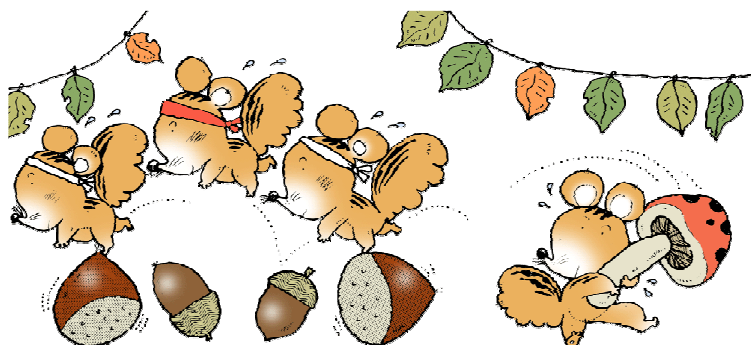


雨降って絆固まる

子どもの力に感動！保護者の皆様のご支援に感動！

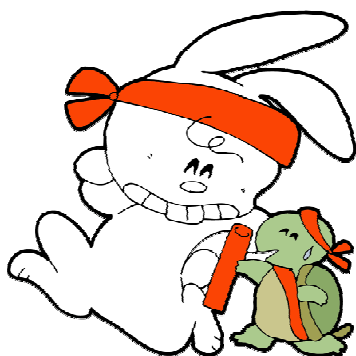
9月13日の運動会は、天気がめまぐるしく変わる中で行われました。昼頃には雨が予想されることから、競技の順番を変更したり、早めたりしながら進めていきました。昼食後の応援合戦が始まりました。1番目の赤組の応援が始まる時から、ポツリポツリと落ちて来た雨が、瞬く間にどしゃ降りとなりました。すぐにグラウンドは水浸しとなり、応援をして



いる子ども達にも容赦なく降り注ぎ、あっという間にずぶぬれになりました。しかし、子ども達は雨を嫌がるそぶりもせず、大きな声で力を合わせて力強い応援を続けました。1年生も身じろぎもせず、上級生とともに一糸乱れる応援を続けました。「めじょけねえ」と感じた方もいたことと思います。結果的には終盤の所で、テントに避難させましたが、子ども達はどしゃ降りをもものともせずがんばったと思います。雨に打たれても応援に打ち込む子ども達の姿にたくましさを感じました。

本番に向けた応援練習では、組頭を中心に、上級生が手取り足取り、下学年に振り付けや替え歌を教えてくださいました。感心したのは、上級生が下級生を叱ったり怒鳴ったりした場面を見なかったことです。「ここはこうするんだよ」「もっと大きな声を出してください」「じょうずだよ」など、1年生にもわかる話し方が自然にできてきました。それに応えるように1年生はじめ、下級生もお兄さんお姉さんの言うことをしっかりと頭に入れてがんばっていました。応援の内容も今年度は組毎の特色がでていたし、声も振り付けも、そろっていました。また、競技も自分の組の一員として、組全体の勝利にむけて全力を尽くそうとする思いが伝わってきました。

子ども達が体育館に移動した後、お父さん方が自主的にテントに残された子ども達の椅子を昇降口まで運んでくれたのです。しかも200個弱の椅子です。ずぶ濡れになりながら、テントから昇降口まで、何度もグラウンドを横切って運んでくれました。椅子移動が終わると、6本の支柱をそれぞれ一人ずつ手分けして持ちながら、合計8つのテントを駐車場脇に移動してくれました。ずぶ濡れになって昇降口に運ばれた椅子は、お母さん方が雑巾できれいにふき取ってくれました。しかも椅子の足の裏の砂も落としてくれていました。おかげさまで、校舎の廊下にも教室にも泥や砂が全



くありませんでした。泥と砂で校舎がざらざらになると予想していただけに、本当に砂が全くないというのは、稀有なことです。代休明けの午後もテントの片付けに何名かのお父さんが来てくれました。平日の仕事の合間を縫って来てくれたのです。子ども達の雨にも負けずに全力で立ち向かう姿、保護者の皆様から支えていただいた学校行事を通し、子ども、保護者の皆様、学校の絆がしっかりと固まったのではないかと思います。また、子ども達にとっては雨の中でも一生懸命に応援を続けた経験や、異学年同士の関わり、組の一員としてのがんばりの中から、自己有用感や友達のよさを感じる心の育ちへつながったこと

と思います。

本当にありがとうございました。また、感想や提案などがありましたら、連絡帳等で教えていただければ幸いです。来年はPTA学年対抗で、綱引きができますように・・・

**** 運動会の結果 ****

優勝:白組 準優勝:赤組 敢闘賞:青組 応援賞:青組 看板賞:白組

PTA綱引き(雨のためジャンケン戦) 優勝:5年P 準優勝:6年P

全国学力・学習状況調査の結果から

4月21日、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」が全国の小学校6年生と中学校3年生を悉皆対象として実施されました。内容は①国語、算数、理科の教科に関する調査(知識に関するA問題と活用に関するB問題)と②学習環境などに関する調査の2つです。全国や県の調査結果につきましてはすでに報道などで公表されております。また、酒田市の状況につきましても、先日各家庭に配布したとおりです。ここでは、本校の状況と対策についてお知らせいたします。

1 教科に関する調査について

○国語Aと理科に関しては全国、県平均を上回っている。

▲国語B、算数A及び算数Bについては、全国、県平均を下回っている。特に算数Bが大きく下回っている。

2 学習状況に関する調査

1) 家庭生活に関わることについて

○読書への興味は本校は非常に高い。

○自尊心、思いやり、地域とのつながり、挑戦する気持ち、規範意識は非常に高い。

○テレビの視聴時間やテレビゲームの時間は全国・県に比べて短い

▲家庭学習を2時間以上行っている子はかなり少ない。

2) 児童自身に関わることについて

○国語、算数の勉強が好きなが子が非常に多い

○算数の授業の内容はよくわかる子が多い

○自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しい子が少ない

▲原稿用紙2~3枚程度の感想文や説明文を書くことは難しい子が多い

▲学習でわからないことがあったときには家の人に尋ねる子が多い



以上の結果から、本校では課題解決のための具体的な方策を講ずるために、「学力向上対策会議」を開催するなど、以下の対応を行った所です。

1 「学力向上会議」の開催

・会議の日までに教師全員で実際に問題を解いてみる。その過程で、本調査で求められている「学力」について、各自で分析を深める。また、分析をもとに自学級の日常授業の進め方について検証しておく(評価・改善)。

・会議当日に、各自の問題分析や気づきを出し合う。

・さらに本校の調査結果をもとに、本校の課題を確認する。また、その原因を自らの実践の中から抽出する。



・課題や原因をもとに、改善策として各自が何に取り組むのか、具体的方法を明らかにする。

2 学力向上のために話し合われたこと（抜粋）

・算数Aではある程度正解しているが、算数Bでは、正解率が大きく下がっている。反面、「算数はわかる」と解答している子が多いことから、「分かる」内容そのもののレベルが問われているのではないだろうか。宿題もきちんとする子も多いことから、学びそのものが基礎基本にとどまっていることが考えられる。「活用する」学習をより多く設定することが必要である。

・国語においては、文中の言葉を使って解答する、限られた文字数で解答するなど、条件に見合った解答が難し

い。

- ・話し合い活動が機能しているかどうか。聞き方、話し方のルールが身についているか。
- ・教師の指示が多く、子どもが臨機応変に話し合いを進める力を阻害していないだろうか。

3 学校における改善策

- ・「わかる」のレベルを上げる。→基礎基本から活用する力へ
 - ・授業においては県教委作成のスパイスシートを一層活用していく。
- また、友達同士で説明し合う活動も一層必要である（教師が解説、説明しすぎない）
- ・書く力を向上させるために、メモを取る機会を増やし、大事なことを簡潔に記録する働きかけをしていきたい。
- ・自分の考えについて理由を言わせるようにする。前に学習した事柄を使うことを子ども達に働きかけていく。また、高学年においては、使用する言葉も専門用語や学んだ言葉を使うように言い直しさせるなどしていく。
- ・総合的な学習や生活科、校外学習などでは「活動あって学びなし」とならないように、教科領域におけるねらいを明確にし、指導にあたる。学習発表会もそうありたい。
- ・テスト中の机間巡視を確実にしながら、児童の解答をチェックし、指導結果について自己評価する。個別の理解の実態や課題を把握する。
- ・学習だけでなく、必要感に迫られた場면을時期を逃すことなく取り上げ、自ら課題解決する場面を作っていく。（廊下を走る子が多い現状をいかに解決するか、リレーでの工夫等）
- ・家庭学習の課題については、基礎基本事項にとどまらず、活用問題にも取り組ませる。

4 おわりに

昨年、一昨年も記載させていただいたように、かなり深刻な今年のx z調査結果ではありましたが、あくまでも「今年の」6年生の結果をもとにしたものです。ちなみに問題数は国語Aが14問、国語Bが9問、算数Aが16問、算数Bが13問で、1問正解するか否かで11.1%~7%の変動があります。その年その年の集団の特性があることも十分に配慮しながら、数字だけで子どもの全てを判断するのではなく、子どもの心も含めた全体の成長に力を注いでいきたいと考えております。学校だけでは「人格の完成」は困難です。ご家庭にお願いしたいことについては、今後も機会を捉えながらお伝えしたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いたします。

